

協議会における今後の取組について

地方協議会名:トラック輸送における取引環境・労働時間改善秋田県協議会
農産物輸送の労働時間等の改善

【概要】

将来的にドライバーの高齢化や人材不足による物流の停滞が強く懸念されている中、秋田県内の青果物については、主に首都圏向けに出荷されており「働き方改革」に伴うドライバーの拘束時間短縮及び「改善基準告示」遵守に向けた取り組みの必要性が生じてきていることから、「首都圏向けの青果物輸送に係る実証実験」を通じてより効果的・持続的な輸送体制の構築に向けたモデル作りに取り組む。

2021年度		2022年度	2023年度	2024～年度	KPI	備考
<p>「首都圏向け青果物輸送に係る効率化実証事業」を実施。</p>		<p>2021年度の実証実験で洗い出された課題について、「首都圏向けの青果物輸送に係る実証実験」を実施。</p>	<p>次年度以降と同様の体制で「通年化実施」の最終確認・検証をおこなうべく、「首都圏向けの青果物輸送に係る実証実験」を実施。</p>	<p>2023年度の実証実験により得られた結果について、他のエリア(県北、中央)にも展開し、県内全体の農産物輸送における労働時間等の改善を図る。</p>	<p>・農産物輸送の労働時間等の改善</p>	

令和5年度秋田県協議会重点取組事項PDCAシート(中間報告)

○農産物輸送の労働時間等の改善

○重点取組事項概要

【実証実験の実施目的】

将来的にドライバーの高齢化や人材不足による物流の停滞が強く懸念されている中、秋田県内の青果物については、主に首都圏向けに出荷されており「働き方改革」に伴うドライバーの拘束時間短縮及び「改善基準告示」遵守に向けた取り組みの必要性が生じてきていることから、「首都圏向けの青果物輸送に係る実証実験」を通じてより効果的・持続的な輸送体制の構築に向けたモデル作りに取り組む。

【今年度の狙い】

次年度以降と同様の体制で「通年化実施」の最終確認・検証をおこなう。

○KPI

【KPI】

ドライバー拘束時間削減

「通年化」を見据え、集荷と幹線の分離・ハブ拠点の管理運営・パレタイズ作業負担の適正化等により、拘束時間を3時間程度短縮し、12時間以内に収めることを目指す。

○重点取組事項の取組状況

2023年8月20日から8月26日までの1週間、秋田県から首都圏各市場間のトラックの青果物輸送について実証実験を実施。

【実施内容】

物流効率化に向けて以下の取組を進めた。

1. 直送/集荷/幹線便 運用設計
2. 幹線便(直送便)台数の最適化
3. ハブ拠点 運営管理
4. 出荷情報連携・精度向上
5. パレタイズ作業 適正化

【KPI達成状況(令和5年9月末時点)】

1. ドライバーの拘束時間削減

・本実証実験の平均拘束時間は、昨年度実績から1時間27分短縮された。

※昨年度実績15時間18分、実証期間中の平均時間13時間51分

・ただし目標の12時間以内に収めるために、更なる改善が必要。

※改善を進めるにあたっては、中央市場の予約システムの導入等による待機時間の削減も必要となることから、秋田県外での取組も必要。

○課題及び今後の対応の方向性

ドライバー拘束時間削減に向けた実証実験を行った結果、昨年度実績を約1時間短縮する等一定の効果が認められたところであるが、「通年化」に向けた最終確認として以下の取組を進める必要がある。

- ・直送便台数の適正化(積載率の向上)
- ・配車業務プロセスの再整備
- ・集荷/幹線便のルート組み換え
- ・集荷/幹線便のスケジュール管理(ハブ拠点 入場スケジュール管理)
- ・県南園芸C ハブ拠点運用本格化
- ・パレタイズ作業要領の明文化
- ・パレットの導入経費の負担者についての整理